公益社団法人日本臨床細胞学会
2025年度第2回理事会　議事録

日 時：2025年6月28日（土）18：00〜19：00
場 所：京王プラザホテル 南館4階 扇

役員総数：　42名（理事　38名、監事　4名）
出席総数：　理事　36名
（理事）森井 英一、阿部 仁、有廣 光司、板持 広明、伊藤 潔、伊藤 仁、井上 健、伊豫田 明、大平 達夫、岡本 愛光、川名 敬、佐治 晴哉、澁木 康雄、進 伸幸、田尻 琢磨、田畑 務、都築 豊徳、内藤 嘉紀、長尾 俊孝、中里 宜正、西野 幸治、羽場 礼次、松浦 祐介、松本 慎二、三上 芳喜、宮城 悦子、森定 徹、森谷 卓也、山上 亘、山口 倫、山下 博、横山 正俊、横山 良仁、若狭 朋子、渡利 英道
（外部理事）園川 太郎
出席総数：　監事　4名
（監事）長村 義之、青木 大輔、佐藤 之俊
（外部監事）小松原 祐介

（顧問）佐々木 寛、土屋 眞一
（膵癌腹腔細胞診標準化ワーキンググループ）平林 健一
（総務委員会幹事）片岡 史夫、星 利良
（制度審議委員会幹事）佐々木 陽介

本理事会は、定足数の半数以上（理事38名中36名出席）を満たしたので有効に成立した。
議長：　進 伸幸　総務委員会委員長の司会進行

森井 英一理事長候補が理事長として選出された。副理事長として、田畑 務 理事、宮城 悦子 理事、羽場 礼次 理事、前田 一郎 理事、伊藤 仁 理事が選出されそれぞれ承認された。
常務理事として、井上 健 理事、進 伸幸 理事、田尻 琢磨 理事、都築 豊徳 理事、内藤 嘉紀 理事、松浦 祐介 理事、三上芳喜 理事、森定 徹 理事、山下 博 理事、横山 良仁 理事が選出されそれぞれ承認された。
新たに外部理事・外部監事となった園川 太郎 理事および小松原 祐介 監事より挨拶があった。

本議事録において定款第23条第3項で定める、理事長、副理事長及び常務理事の職務執行状況報告については＊印を付す。
本理事会の開催にあたり、＊森井 英一 理事長、＊田畑 務 副理事長、＊宮城 悦子 副理事長、＊羽場 礼次 副理事長、＊伊藤 仁 副理事長の挨拶および報告が行われた。

＊理事長報告・挨拶（森井 英一）
岡本前理事長が非常に素晴らしい理事会運営を遂行されていたため、後任としては大きなプレッシャーを感じているが、自身も頑張って職責を全うする所存である。第66回春期大会については、田畑先生のご尽力により誠に盛大に開催されており、会の運営にあたって先生が楽しみながら取り組まれてきた様子が随所に感じられる。今後も、次のステージを見据えた活力のある学会を目指していく所存である。また定款変更については、3分の2以上の賛成を要件とする中、先ほどの総会において無事に可決された。これもひとえに先生方のご尽力の賜物であり、深く感謝申し上げる。特に、事務局の皆様には緻密なご対応をいただき、深く感謝申し上げる。なお、本理事会より新たに外部理事・外部監事として以下の先生方をお迎えすることとなった。外部理事の園川 太郎先生と外部監事の小松原 祐介先生である。国際関係においては極めて大きな動きが見られている。山口 倫 理事のリーダーシップのもとで非常に活発に展開されており、今後も内藤

嘉紀 理事および西野 幸治 理事を新たに加え、更なる国際連携の推進を図っていく所存である。特にAFCSに関しては、横山 良仁 理事が主催される大会と同時開催となる予定であり、これを機にJSCCとの共創関係を強化できるよう鋭意取り組んでいく考えである。その一環として、本理事会の議案にはワーキンググループの立ち上げが含まれている。HPVファーストによる細胞診のあり方についても今後真摯に検討すべき課題である。JAPAN LBC宣言が発出されたことを受け、それに準拠する形での取り組みを進めてまいりたい。さらに、人材育成および精度管理に関しては、デジタル技術の活用により、可能な限り顕微鏡フリーの運用体制の実現を目指し努力していく方針である。加えて、先ほど総会でいくつかご意見を頂戴したが、会員諸氏との円滑なコミュニケーションを図るための事務局体制の再構築にも注力していく所存である。引き続き、先生方のご理解とご協力を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げる。

＊副理事長報告（田畑 務、宮城 悦子、羽場 礼次、伊藤 仁）

田畑 務 副理事長：このたび、引き続き副理事長を拝命した。今後も細胞学会の発展に尽力する所存であり、よろしくお願い申し上げる。

宮城 悦子 副理事長：私の恩師であり、かつて神奈川県立がんセンター部長を務められた中山裕樹先生が礎を築かれた制度審議に関する委員会において、長年にわたり活動してきた。その経験を糧に、今後も本学会に対して一層の貢献ができるよう尽力していく所存である。

羽場 礼次 副理事長：長く評議員および理事として活動し、種々の委員会において多様な業務に携わってまいった。中でも得意とするのはコミュニケーションであり、今後は学会事務局を担当する立場として、会員の皆様のご意見に真摯に耳を傾け、学会の一層の発展に貢献していく所存である。

伊藤 仁 副理事長：このたび、渉外、国際交流ならびにIACを担当させていただくこととなった。日本臨床細胞学会のさらなる発展に寄与すべく尽力する所存である。今後とも何卒よろしくお願い申し上げる。

前回（2025年度第1回理事会）議事録について

2025年度第1回理事会の議事録確認が行われた。

総務庶務報告（2024年06月16日現在）

全会員数：13,297 名
（正会員 5,693 名，準会員 7,358 名，名誉会員 38 名，功労会員 197 名，図書会員 11 件）
細胞診専門医および細胞診専門歯科医数： 3,275 名（実数）
（認定：細胞診専門医 4,238 名、細胞診専門歯科医 129 名）
FIAC：61 名 MIAC：27 名
細胞検査士数：8,351 名（実数）（認定 11,857 名）
CT(IAC)：3,486 名

物故会員（2025 年 4 月 18 日～2025 年 6 月 16 日）

準 会 員　西田 忠義（にしだ ただよし） 殿（(株)大阪細胞病理研究所 診断検査部）
　　　　　川口 忠介（かわぐち ただすけ） 殿（三田市民病院 臨床検査科）

黙祷

第66回春期大会報告（田畑務、京王プラザホテル、2025年6月27日(金)～29日(日)）

田畑 務 大会長より以下の報告があった。7,000名を超えるご登録を賜り、誠にありがたく存ずる。これもひとえに先生方のお力添えの賜物と深く感謝申し上げる。残すところあと一日となったが、引き続き何卒よろしくお願い申し上げる。

大会準備状況
第64回秋期大会（有廣 光司、広島国際会議場・広島市文化交流会館、2025年11月29日（土）～30日（日））、第67回春期大会（宮城 悦子、パシフィコ横浜ノース、2026年6月12日（金）～14日（日））、第65回秋期大会（前田 一郎、幕張メッセ、2026年11月22日(日)～23日(月・祝))、第68回春期大会準備状況（横山 良仁、メトロポリタン仙台・仙台国際ホテルほか、2027年6月11日(金)～13日(日))、第66回秋期大会（板持 広明、アイーナいわて県民情報交流センター ・マリオス盛岡地域交流センター、2027年11月13日(土)～14日(日))の準備状況に関する報告が行われた。

【常置・各種委員会から報告】

総務委員会（＊委員長 進 伸幸）【資料あり 】
〔報告事項〕
1. 学会内、他学会との調整を行い、円滑に学会運営が行われるよう対処している。
2. 2025 年 1 月 24 日に第 3 回理事候補選挙管理委員会が開催され、そこで理事長選挙に関して、複数の立候補者があった場合の投票形態について意見が交わされた。理事会運営に関わる施行細則を確認したところ、第 1 条第 6 項に「理事長候補の選出は、（中略）郵便投票で行う」と記載されていることを確認した。理事長立候補者が複数の場合も電子投票で行う方が便利であるため、総務委員会で細則変更を協議することとなった。2025 年 4 月 30 日から 5 月 7 日にかけて、通信委員会を開催し、『理事会運営に関する細則』の改定と、『理事長候補選挙における電子投票に関する申し合わせ』という内規の制定について検討を行った。前者の改定案と後者の内規案を本理事会にて提示して、承認されれば、今後制度審議委員会にて審議していただく予定である。

〔審議事項〕
1. 『理事会運営に関する細則』の改定と、『理事長候補選挙における電子投票に関する申し合わせ』という内規の制定について、ご審議いただきたい。目的と細則改定と申し合わせ制定について承認されれば、後日制度審議委員会にて審議いただき、2025 年 6 月 28 日の日付にて一部改訂施行、とさせていただきたい。

審議結果⇒承認 （理事会運営に関する施行細則の改訂案 附則4において、「理事」を「理事候補」に修正を加えた上で制度審議委員会に諮る。）

情報処理委員会（委員長 川名 敬）【資料あり】

〔報告事項〕
1. 本会ホームページの改訂の進捗状況

2025年5月下旬	新HPサイト（案）が完成。
2025年6月中旬	理事会内でテストページを公開、HP会社による修正期間
2025年6月28日	理事会で最終確認、公開について審議
2025年7月1日	全面公開予定

2. HPへのバナー広告の掲載の承認
第50回組織細胞化学講習会 実行委員長の宮崎龍彦先生より当学会HPへのバナー広告掲載申込が届いた。当委員会で承認するかの判断を依頼された。バナー広告の内規に合わせ承認する判断となった。掲載場所は、現行HPであればTOPページ左下のエビデントバナーの下、新HPに移行した後はTOPページ下のエビデントバナーの右隣。
（添付１：内規 添付２：委員２名からの回答）

〔審議事項〕
1. 新HPの公開について
審議結果⇒承認

学術委員会（＊委員長　田尻 琢磨）【資料あり】
〔報告事項〕

1. 学会賞・技師賞・班研究課題の応募結果のイェローページへの掲載（応募締め切り：2025 年 6 月 27 日(金)必着）
学会賞1件、技師賞（学術部門）2件　技師賞（功労部門）3件、班研究課題3件の応募があった。(2025年6月27日時点)
学術委員会21名による審査が7月中に行われる予定。
＊最優秀論文賞は来年1月ごろ公示予定

〔審議事項〕

1. 日本医学会から“第 32 回日本医学会総会(2027 年 4/23-25 日)”合同シンポジウムの公募“参加について“【合同シンポジウムの企画は 2 つ以上の分化会で企画してください】と記載あり日本病理学会との企画を模索して頂ければと岡本愛光前理事長先生から助言有り。（資料参照）　前田副理事長が日本病理学会学術委員会委員長の田中伸哉先生と連絡を取り病理学会理事会でも確認して頂き、森井理事長とも協議し“がんゲノム”をテーマにした草案を以下のように作成した。
テーマ　病理診断・細胞診断におけるがんゲノム医療
座長：畑中豊（日本病理学会）、森井英一（日本臨床細胞学会）（以下、演者案、仮題）90分枠で演者が4名、女性医師を1名入れる。
がんゲノム医療における病理・細胞診検体の取扱い
畑中佳奈子（北海道大学、日本臨床細胞学会）
がんゲノム医療における精度管理
（仮）　桑田　健（国立がん研究センター東病院、日本病理学会）
婦人科領域におけるがんゲノム医療
三上芳喜（熊本大学、日本臨床細胞学会）
脳腫瘍におけるがんゲノム医療
谷本昭英（鹿児島大学、日本病理学会）
早急に学術委員会(6月30日予定)を開いて意見を聞く予定にしている。応募期間が7月31日と迫っておりその後の対応に関して一任してほしい。

審議結果⇒承認

計理委員会（＊委員長 山下 博）【資料なし】
〔報告事項〕
1. 委員会メンバー候補者を選出した
2. 畿央大学から提案された契約書を本会弁護士に確認していただき、修正後に契約締結予定

〔審議事項〕
なし

編集委員会（＊委員長 都築 豊徳）【資料あり】
【報告事項】

1. 資料１に日本臨床細胞学会の現在の投稿状況を示す。
2. 5/21(水)に編集委員会を行った。日本臨床細胞学会雑誌への投稿数増加についての意見交換を行った。（資料1)

〔審議事項〕

1. 査読者のモチベーションを高めるために、毎年ベストレビューア賞を設立したい。年間2名程度を選出することを考えている。

審議結果⇒継続審議（引き続き委員会内で決定方法や表彰人数等の詳細について審議を進めていただき、次回の理事会において取りまとめた案をご提示いただく。）

質疑：

・進 伸幸 理事：年間何件程度の査読があるのか？

→ 年間40件前後である（都築 豊徳 委員長）

細胞診専門医委員会（＊委員長　松浦 祐介）【資料あり】

〔報告事項〕

1. 令和６年度細胞診専門医資格更新について
   令和６年度の対象者ナンバーは、3613-3730、8075-8078である。2025年2月22日（土）に資格更新審査委員会（ハイブリット会議）を開催した。全更新対象者122名中、更新可110名（90.2%）、単位充足要審査2名（1.6%）はいずれも更新可、単位不足要審査2名（1.6%）はいずれも更新可、単位不足保留更新希望2名（1.6%）、未申請5名（4%）、逝去1名（0.8%）となった。単位不足者にはeラーニング等で充足を、未申請者には書類提出等を督促中である。
2. 令和６年度教育研修指導医資格更新および新規申請について
   資格更新対象者、新規申請者の申請を2025年4月30日に締め切った。現在事務局で取りまとめ中である。なお、2025年度から申請締め切りを12月20日とし、第3回細胞診専門医委員会で審査することになった。
3. 令和７年度細胞診専門医資格認定試験について
   令和７年度の細胞診専門医資格認定試験は2026年2月7日（土）に行う予定である。会場はAP浜松町を予定している。今年度から細胞診専門医試験委員会委員長は、東京医科大学の松林純先生となる。試験委員の選定が終了し、第一回委員長・副委員長会議を5月11日に実施。6月に試験公示予定である。
4. サブスペシャルティ領域専門医について
   専門医機構のサブスペシャルティ認定について、本学会は学会認定機構承認としてサブスペシャルティ申請を、日本病理学会を通して2022年9月に行い日本専門医機構が受理した。その後進展がなく経過していたが、2023年12月にサブスペシャルティ領域専門研修細則（第二版）が改定され、機構が指定するカテゴリー1、連絡協議会が指定するカテゴリー2、連絡協議会が認定するカテゴリー3に分類された。本学会はカテゴリー3で申請する予定である。カテゴリー3の申請受付開始時期については未定である。申請に際しては、細胞診専門医委員会が専門医検討委員会として、新細則に準拠した「専門研修制度整備基準」を作成することになると思われる。
5. e ラーニングについて
   e ラーニングシステムを構築し2019年2月より運用を開始した。現在、共通講習37コンテンツ（含 指導医講習 5 コンテンツ）、領域講習 54コンテンツ、検査士講習44コンテンツ（検査士講習は領域講習も兼ねる）が閲覧可能である。
6. 細胞診の精度管理アドバイザー（子宮頸がん）資格認定について
   2025年2月22日（土）に資格認定審査委員会（ハイブリット会議）を開催した。全申請者178名中、認定可170名、残り8名中3名が細胞検査士であり、5名を審査した。審査料不足2名には入金すれば認定可、未申請で入金済の1名には申請すれば認定可、eラーニングでの取得単位上限数を超過した1名を不可、未申請で、かつ締め切り過ぎの入金1名は不可となった。

〔審議事項〕

1. 細胞診専門医資格更新案内について
   細胞診専門医の更新について、1）11月中旬にホームページ上にスケジュール等をアップ、2）11月下旬に対象者全員へ手続き案内を封書で発送している。郵送料の高騰もあり、更新案内をメールで行い、郵送を少なくしていきたい。更新手続きに必要な情報はホームページのマイページに収載すみである。学会にメールアドレスの登録がなされていない会員には郵送での案内を継続する。

審議結果⇒承認

質疑：

・進 伸幸 理事：メールアドレスが登録されていない細胞診専門医の数はどれくらいか？

→ 毎年100名前後と思われる。（事務局）

2. 細胞診の精度管理アドバイザー（子宮頸がん）資格更新方法の変更と資格更新施行細則の一部改訂について
   資格の更新は原則5年ごと年に１回行う。更新は細胞診専門医もしくは細胞検査士更新申請と同時に行うこととする。

審議結果⇒承認

質疑：

・山下 博 理事：精度管理アドバイザーの講習は年に何回開催されるのか？

→ 年に2回開催され、eラーニングでの受講も2単位までは認められる。（松浦 祐介 委員長）

施設認定制度委員会（委員長 長尾 俊孝）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 施設認定新規申請審査：
   2025年4月30日（水）締め切りで募集した結果5施設申請があった。審査の結果、下記の全施設が認定となった。
   1015 新小山市民病院
   1016 医療法人徳洲会出雲徳洲会病院
   1017 筑波学園病院
   1018 独立行政法人労働者健康安全機構和歌山労災病院
   1019 大阪赤十字病院
2. 教育研修施設新規申請審査：
   2025年4月30日（水）締め切りで募集した結果、申請無しであった。
3. 認定施設更新審査：
   2025年3月31日（月）申請締切。全76施設、更新可74（97.4%）、辞退2（2.6%）。更新可施設へは新期間の認定証発送予定。
4. 教育研修施設更新審査：
   2025年3月31日（月）申請締切。全3施設、更新可3（100%）。
   更新可施設へは新期間の認定証発送予定。
5. 2024年度・年報提出依頼とその集計解析(認定施設、教育研修施設)：
   2025年3月31日（月）年報提出締切。認定施設年報は5月末集計解析依頼済（提出率97.4%）。
   教育研修施設年報の提出率は97%。未提出施設へは提出督促中。
6. 2025年度・内部精度管理：
   調査施設選定中。
   ・実地調査：2025年度新規認定施設全施設、書類調査：年報未提出施設を対象予定
   ・内部精度管理WGのもとで2025年度中に実施予定
7. 外部精度管理（全認定施設でコントロールサーベイ）：
   ・2026年度実施方法（完全WEB化）について外部精度管理WGのもとで検討中

〔審議事項〕
なし

細胞検査士委員会（＊委員長 三上 芳喜）【資料なし】
〔報告事項〕
1. 第 58 回細胞検査士資格認定試験の準備状況
- 2025 年 10 月 25 日（土）に実施予定の一次試験（CIVI 研修センター新大阪東）、12 月 6 日、7 日に実施予定の二次試験（TKP ガーデンシティ御茶ノ水）に向けて、運営員会を組織し、問題作成などの準備に着手した。

〔審議事項〕
なし

細胞検査士資格更新審査委員会（＊委員長　伊藤　潔）【資料なし】

〔報告事項〕
1. 2025年度細胞検査士資格更新作業
10385-10636
※2026年2月　更新審査会開催予定

2. 2024年度細胞検査士資格更新審査結果
全1701名

1.	更新可	1,599名	94%
2.	前回条件付更新可で今回条件クリア	9名	0.5%
3.	条件付更新可	4名	0.2%
4.	保留更新	1名	0.1%
5.	資格失効	20名	1.2%
6.	更新辞退	30名	1.8%
7.	退会・退会申請中	38名	2.2%

更新可には3月中に結果発送済み
通常更新可以外（条件付更新可・保留更新）の更新結果書類は4月発送済み
未申請でレターパックプラスへの反応が無かった方たちには資格失効通知済み

〔審議事項〕
なし

教育委員会（＊委員長 横山 良仁）【資料なし】

〔報告事項〕
1. 2025 年度　各種セミナー開催予定

講習会	開催日	開催地・実施委員長
第134回細胞検査士養成講習会	2025年7月14（月）～ 7月26日（土） 12日間	場所：杏林大学保健学部実習室(井の頭キャンパス) 実施委員長：阿部　仁（がん研有明病院） 現地実習＋現地講義、受講人数：40名予定

第50回細胞診断学セミナー	WEB講義視聴期間 2025年9月8日（月） ～9月26日（金）	WEB開催 実施委員長：教育委員会委員長 WEBについて受講者数制限なし
第85回細胞検査士教育セミナー	WEB講義視聴期間：未定	WEB開催 実施委員長：棚田　諭（大阪国際がんセンター　医療技術部臨床検査部門） 受講者数制限なし
第90回細胞検査士ワークショップ	鏡検実習日：9月27日（土） WEB講義視聴期間：9月22日（月）～10月6日（月）	場所：新潟大学医学部医学科実習室3-A 実施委員長：遠藤浩之（済生会新潟病院　病理診断科） 現地実習＋Web講義予定 講義と現地実習受講人数：未定 講義のみは人数制限なし
第91回細胞検査士ワークショップ （12月～3月の期間）	鏡検実習日：未定 WEB講義視聴期間：未定	場所：未定 実施委員長：藤田　勝（倉敷成人病センター　病理科） 現地実習受講人数：未定 講義のみは人数制限なし

2. 細胞診断学セミナーの実習に相当するWSI実習についてデジタルサイトロジー・AI検討WGが中心となり委員会横断的に検討することになった。
3. 細胞検査士教育セミナーは、2025年度以降もWEB開催のみとする。
4. 細胞検査士養成講習会は現地鏡検実習と講義、細胞検査士ワークショップは、WEB講義と現地鏡検実習と従来のままとする。

〔審議事項〕
なし

<u>渉外・広報委員会（＊委員長 森定 徹）</u>　【資料なし】
〔報告事項〕
1. 「日本臨床細胞学会の著作物の転載に関する要領」、「転載許諾申請書」について案を作成し、認可を受けた。外部より転載許諾の申し出があった際には、渉外・広報委員会が窓口として受付けた後に関係委員会へ振り分けを行っている。
   - 2024/3月　準学術（商業誌等）1件
   - 2024/6月　商用（販売促進資料等）１件
   - 2024/9月　準学術（商業誌等）１件
   - 2024/10月　準学術（商業誌等）１件
   - 2024/12月　準学術（商業誌等）2件
   - 2025/4月　準学術（商業誌等）1件

2. 本会の著作物（細胞検査士試験問題）の転載利用事例への対応の進捗について
広報委員会内においても協議の機会を設け、今後の対応方針について慎重に検討を進めている。最終的には、進 伸幸 総務委員長および弁護士との面談を実施し、本学会としての態度や対応方針について精査を行った上で、理事会に再度諮り然るべき対応を講じる方針である。
3. 「細胞アート展」について
10周年記念事業の一環として開始された「細胞アート展」は、極めて重要なイベントであると認識している。そのため、当該事業の継続性については、今後十分に検討を重ねていく必要があると考えている。来年度の横浜開催までは、引き続き学術集会内での実施が見込まれるものの、開催形式や実施方法に関しては検討が必要であり、学術集会長にとっては費用面・会場ス

ペース面において一定の負担を要する点も懸念される。今後本委員会においても協議を進め、再度理事会にて議論させていただきたいと考えている。
森井 英一 理事長より以下の発言があった。
サステナビリティの観点が極めて重要である。現在、保管物品も相当数におよんでおり外部倉庫の利用の必要性が出てきている。これに伴い、新たに経費が発生する可能性があるため、山下 博計 理委員長と協議を重ねながら対応を進めていただきたい。

〔審議事項〕
なし

社会保険委員会（委員長　中里　宜正）【資料あり】

〔報告事項〕
1. 令和８年度診療報酬改正に向け、要望書を作成するとともに、内保連、厚生労働省などと交渉を進め、あるいは対外的に活動していく。
今後のスケジュール
①令和７年６月　　厚労省へ最終提案書提出
②令和７年７月　　厚労省のヒアリング
令和8年度診療報酬改定提案書
保険未収載技術
1. 婦人科細胞診精度管理加算
2. 国際標準病理診断管理課さん
保険既収載技術
1. 細胞診検体に対する免疫染色の適応拡大
2. HPV検診に対応した子宮頸部細胞診への細胞診断料の付与
3. 体表臓器（乳腺、甲状腺、表在リンパ節）への迅速細胞診（検査中の場合）の適応拡大
4. 末梢肺腫瘤におけるレントゲン（CT、レントゲン）下肺生検に関する迅速細胞診の適応拡大
5. 液状化検体細胞診加算の見直し
基本診療料　既収載
1. 感染対策向上加算　細胞診部門への安全キャビネットの設置
他学会との共同提案
1. 呼吸器細胞診検体を用いた特殊染色　（呼吸器内視鏡学会）
2. 迅速細胞診の出来高算定　（日本病理学会）

2. 東海・北陸地方における病理組織診と細胞診の併算定が査定されていた問題
①令和７年３月３日付で臨床細胞学会　岡本理事長名義で中部審査事務センターへ質問状を提出
②令和７年３月 17 日付で回答あり。（資料 1）
令和6年度診療報酬改定において変更された内容を含め、審査上の取り扱いを協議する方向で検討しています。
洗浄腹水（又は胸水）細胞診に関しては、同一検体とは判断しませんので組織診と細胞診の併算定が認められる取扱いとなります。
今後の査定状況を引き続き調査していく。
令和7年4月請求分の審査状況について問い合わせ中

3. 喀痰細胞診の原価計算
東北を中心に多数のデータの提供をいただいた。データ解析は、継続中。

4. 細胞診標本の保管期間について
日本病理学会より、検体の保管期間について、細胞診標本の保管期間について意見提出の依頼（資料２）があり、前回理事会（第1回）にて、社会保険委員会で検討する議案となった。日本臨床細胞学会制度管理委員会施行の施設年報から、認定施設における細胞診標本の保管期間のデータ解析により保管期間を設定する予定である。

〔審議事項〕
なし

地域連絡委員会（委員長　板持　広明）【資料あり】
〔報告事項〕
1. 2023年度都道府県地域連携組織・連合地域連携組織活動報告について：（資料1-3）
  1）2023年度地域学会・連合会活動報告の回収および集計を行った。
  2）2025年6月13日開催の全国地域代表者会議で、集計結果の報告を行った。
2. 地域連携組織に対する助成金による支援（子宮の日）について：（資料4）
  1）2024年度の活動支援の申請件数 41件（47件中）
  （中止 4件：奈良、山口、徳島、島根、申請無 2件：三重、大阪）
  開催後、実施内容報告書を提出した地域学会に対して、5万円を上限とした助成金の支援を行う。
  2）2025年度の地域連携組織に対する活動支援について、助成金5万円を上限とし、希望する地域学会は2025年3月末までに、企画書を提出するように依頼した。
  申請件数 46件（47件中）
3. 地域連携組織未所属者数およびメールアドレス登録について：（資料5,6）
  1）地域連携組織未所属者に対して、可及的に地域連携組織へ加入していただくように全国地域代表者会議で依頼した。
  2）メールアドレスの登録率は順調に伸び、46/47都道府県で95%以上となり、7県では100%を達成した。マイページへのさらなる登録、メールアドレス入力を各地域連携組織で周知していただくように、全国代表者会議でも依頼した。

〔審議事項〕
なし

国際交流委員会（＊委員長　内藤嘉紀）　【資料なし】

〔報告事項〕
1. 第22回 INTERNATIONAL CONGRESS OF CYTOLOGY（ICC）がイタリア フィレンツェで開催された。
  - ICCの研究助成金について下記の５名の先生方が選出され、日本コンパニオンミーティングを行った。１名につき50万円（国際交流委員会およびICC関連委員会から５名）小原 勇貴 先生、高橋 光司 先生、宮尾 章汰 先生、大崎 博之 先生、田中 良太 先生

  - COMPANION MTG CM06 - JSCC (May 11, 2025)
    Inheritance of skill and spirit in cytology to the next generation
    Chair: Rin Yamaguchi, Yukitoshi Satoh
    Presenter: Robert Y. Osamura, Hiroyuki Ohsaki, Masaru Hosone, Nao Nitta, Tohru Morisada, Ryota Tanaka

  - 第22回 INTERNATIONAL CONGRESS OF CYTOLOGY（ICC）では、3名の先生方が受賞された。
    長村義之先生（George L. Wied Award Winner 2025）

佐藤之俊先生（Kazumasa Masubuchi Award 2025）
廣井禎之先生（2023 Cytotechnologist of the Year Award）

2. 2025年の第66回細胞学会春期大会グローバルアジアフォーラムの概要について
Global Asia Forum 6月 28 日(土)13:10-14:40
セッションテーマ: “Cytology in Asia: Up to date”
座長は長村 義之先生に決定している。演者は、片山博徳先生と長村義之先生に相談し、下記の４名の先生を選出した。
演者
- Mark Chien-Chin Chen　所属：Human Biobank, Taiwan
  Cervical Cancer Prevention and Screening in Taiwan: the changing year 2025.
- 里見 英俊　所属：大阪国際がんセンター.
  Distinctive Lymph Node Lesions in Japan: Beyond Spatiotemporal Boundaries and Morphology
- Nguyen Thị Hang 所属：Vinmec Healthcare System Vinmec Times City International Hospital, Vietnam
  NIFTP: From Cytology to Histopathology – What Have We Learned?
- Rizky Ifandriani Putri　所属：Dharmais Cancer Hospital -National Cancer Center, Indonesia
  The role of fine needle aspiration in breast cancer with neoadjuvant chemotherapy.

3. 第29回日タイ細胞診 WS 2025年1月22 日(水)・23 日(木)・24 日(金)で開催された。
- 開催地,会場 :Amari Hua Hni, Chiang Mai, Thailand

4. 4th JHU-ASC-JSCC workshop meetingは下記日程で細胞学会秋期大会（広島）に合わせて合同開催予定。西野幸治先生がジョンホプキンンス大学と調整中である。演者等は未定。また単位取得等も事務局と協議中。
- Date; Nov 28(Fri)29(sat), 2025　Venue; TKP Hiroshima Hondoriekimae Conference center

5. 日韓交流に関して
- 年に１回９月に日韓細胞診合同会議が開催されている。2024年は無事に終了した。また、韓国の新体制の連絡を受け、前回の理事会で報告済み。

- 韓国側から、韓国病理学会の雑誌（JPTM）の投稿が少ないという課題があり、日韓合同会議で発表された症例報告、スライドセミナー、プレナリーセッションで発表したものを投稿してもらえないかという依頼があった。坂本穆彦　先生、谷山清己　先生、佐藤之俊 先生と協議し、演者の了解があれば可となった。以下、演者に承諾を得て、JPTMへ投稿済み。
  - 廣川満良 先生（隈病院）：2024年レクチャー発表
    総説で採択＜総説　謝金（1,000,000 ウオン）＞
  - 藏本純子先生（慶應義塾大学）：2024年スライド・カンファレンス発表、
    症例報告で投稿中＜採択で掲載費免除＞
  - 高橋弥冴先生（大森赤十字病院）：2023年ポスター発表
    症例報告で採択＜掲載費免除決定＞

〔審議事項〕
なし

制度審議委員会（＊委員長　井上　健）【資料なし】
〔報告事項〕
1. 2025年度第1回理事会にて承認された以下の項目の改定および追加を行った．
定款・施行細則
p. 49 研修会で取得可能な細胞診専門医資格更新単位認定の申請に関する施行細則
p. 63 細胞検査士資格更新実務に関する施行細則
p. 66 研修会・学術集会等で取得可能な細胞検査士資格更新単位認定の申請に関する施行細則
2. 第1回理事会後，当委員会への審議依頼なし．今後各委員会からの依頼に応じて制度審議委員会で審議を行っていく．

〔審議事項〕
なし

医療安全委員会（委員長 伊豫田 明）【資料なし】

〔報告事項〕
1. 医療安全セミナー、感染対策セミナー開催
第66回日本臨床細胞学会総会春期大会
■医療安全セミナー
演題名：「医療安全の視点から考える臨床倫理と患者ハラスメント」
座長：　東邦大学外科学講座呼吸器外科学分野　伊豫田　明
演者：　三重大学医療安全科　兼児　敏浩先生
日時：　2025年6月28日（会期：2025年6月27日－29日）
■感染対策セミナー
演題名：「細胞診で想定する感染症」
座長：　日本大学医学部産婦人科学系産婦人科学分野　川名　敬先生
演者：　東京女子医科大学感染症科　菊池　賢先生
日時：　2025年6月28日（会期：2025年6月27日－29日）

第64回日本臨床細胞学会秋期大会
■医療安全セミナー
演題名：「変化にしなやかに対応できるシステムづくり」
座長：　県立広島病院臨床研究検査科・病理診断科　西阪　隆 先生
演者：　広島大学病院 医療安全管理部　伊藤 英樹 先生
日時：　2025年11月（会期：2025年11月29日－30日）
■感染対策セミナー
演題名：「コロナパンデミック，サイレントパンデミックAMRから学ぶ感染対策」
座長：　広島大学大学院医系科学研究科 病理学研究室　武島　幸男　先生
演者：　東邦大学医学部微生物感染症学講座 舘田一博 先生
日時：　2025年11月（会期：2025年11月29日－30日）

〔審議事項〕
なし

倫理委員会（委員長 阿部 仁）【資料あり1～4】
〔報告事項〕
1. 一般社団法人医学会連合「学術集会への演題応募における倫理的手続に関する指針」の変更に伴い、当学会の「学会発表・論文投稿倫理指針」の見直しを行い、改定（案）を策定した。

〔審議事項〕
1.　学会発表・論文投稿倫理指針改定（案）を作製したので、ご審議をお願いする。
審議結果⇒承認（自身の体を検体として使用した場合も倫理審査が必要となる旨を追記する。）
質疑：
・都築 豊徳 理事：編集委員としての業務において、所定の登録・記載がなされていない会員がおられる状況が見受けられる。この点につき、今後はより一層の徹底をお願いしたい。また事例として、自身の体を検体として使用したため、倫理審査は不要であると考えておられた方が複数名確認されており、会員の中には同様の誤解をされている方が相当数おられる可能性がある。自身の体を使用した場合は、個人が特定化される情報に該当し、倫理的配慮が必要であるという点が理解されていないようである。自身の体を検体として使用した場合も倫理審査が必要である旨を追記していただけるとありがたいと考えている。
→　ご意見を反映させていきたいと考えている。（阿部 仁 委員長）

利益相反委員会（委員長 大平 達夫）【資料なし】
〔報告事項〕
1.　役員改正後に対象者に対して利益相反自己申告を7月中に依頼する予定。

〔審議事項〕
なし

臨床研究審査委員会（委員長 渡利 英道）【資料なし】

〔報告事項〕
1.　新規臨床研究の審査依頼なし。

〔審議事項〕
なし

IAC連絡委員会（委員長　西野　幸治）【資料あり】
〔報告事項〕
1. 国際交流委員会、細胞検査士委員会と連携してIAC試験模擬試験問題の日本語訳作業を行った。

   佐藤 之俊 監事（前IAC連絡委員長）より以下の発言があった。

   日本語訳においては、合計75問の問題を対象に作業を行った。IAC連絡員であるCTの方々、ならびに国際交流委員会および細胞検査士委員会の限られたメンバーにより作業していただいた。その尽力に対して、この場をお借りして心より感謝申し上げる。
2. The 22nd International Congress of Cytology 2025は、2025年5月11 – 15日にイタリア フィレンツェ Fortezza da Bassoにて開催され、コンパニオンミーティングを行った。なお、国際化を推進するため、トラベルグラントを整備し、審査を行なった上で支給した。
3. The 23rd International Congress of Cytology 2028は、韓国水原市（suwon）にて、2028/5/8-12に開催予定（資料1）。
4. 7月12日にIACの資格認定試験がAP浜松町行われる予定である。

〔審議事項〕
なし

臨床試験ワーキンググループ（委員長 進 伸幸）【資料なし 】

〔報告事項〕

1. 『一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診とHPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究（CITRUS study）』（山梨県、千葉県柏市）の進行状況：
   ① 本研究では、2013～2014 年度に研究参加した子宮頸がん検診受診者の初年度以降のデータの収集を研究事務局、データセンター（神戸医療産業都市推進機構 医療イノベーション推進センター）、EDC管理担当（メディカルエッジ）、関係医療機関と協力して完了した。研究成果について第65回春期大会（森井会長）で最終報告した。現在はこの最終報告データをもとに論文化を進めている。本ワーキンググループはこの論文化が完了した時点での解散を計画している。論文公表時には、ホロジックジャパン株式会社より研究資金、研究資材の援助を受けたこと、本学会から研究費を含め人的、物的な援助を受けたことを明記する。
   ② 国の指針がHPV単独検診の方向に動いたことに対応するために、追加でデータ解析を行うことについて、費用的な面はPIの青木先生がご負担いただき、神戸医療産業都市推進機構医療イノベーション推進センターと PI 青木先生の間で契約を結ぶ形で作業を進めることに以前の理事会で承諾をいただいている。
   ③ 2025年6月4日にweb会議を開催し、論文化の現状について討議を行った。実務担当の森定徹先生より、CIN3+検出における併用法の細胞診単独法に対する非劣性を示し得たと報告された。PIの青木大輔先生より、併用法vs細胞診単独法のRCTであるのに対して、世界の趨勢はHPV検査単独法に向かっており、HPV検査単独法にも使えるような解析結果を追加するためにデータセンター（TRI）に追加解析をお願いする予定であるとの説明がなされた。質疑応答が行われ、引き続き論文化作業を支援していくことが確認された。

〔審議事項〕

なし

ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループ（委員長 森井 英一）
【資料なし】

〔報告事項〕

1. ゲノム診療時代において、細胞診はDNA/RNAの重要なソースであることから、その品質保証についての実証実験を行い、様々な状況における細胞診検体におけるDNA/RNA品質を検証している。
2. 実証実験のまとまったものをもとに指針の第二版を発出した。臨床検体を用いた実証実験、次世代シークエンサーを用いた実証実験を中心に今回はまとめている。今後、さらなる実証実験を続ける予定である。

〔審議事項〕

なし

ゲノム時代における呼吸器細胞診検体処理の精度管理ワーキンググループ
（委員長　佐藤　之俊）【資料　なし】

〔報告事項〕

1. がんゲノム診療における細胞検体の取扱い指針の第2版の作成に協力した。

〔審議事項〕

なし

IAC Yokohama System 乳腺細胞診ワーキンググループ（委員長 森谷 卓也）【資料なし】
〔報告事項〕
1. 現在論文投稿中である。
2. 乳癌取扱い規約第19版（2025年6月発刊予定）に紹介文が掲載される。

〔審議事項〕
なし

デジタルサイトロジー・AI検討ワーキンググループ（委員長 前田 一郎）【資料なし】
〔報告事項〕
1. デジタルサイトロジーを使用した診断・判定機器の調査
2. 日本臨床細胞学会デジタル化についての検討を進める
   2025年度第１回会議を行った（6/16/2025）.
   まずは教育への活用（細胞診断学・細胞検査士セミナー、学術集会のスライドセミナー、各種研修会、など ）を1stステップとする方針が提案された.
3. WG メンバーの追加：松林純先生（東京医科大学人体病理学分野）

〔審議事項〕
なし

膵癌腹腔細胞診標準化ワーキンググループ（委員長 平林 健一）【資料なし】
〔報告事項〕
1. スモールグループでの腹腔細胞診一致率を検討中
2. WG委員が関与した「膵癌切除例における腹腔洗浄細胞診「疑陽性」の臨床的意義を検討するための多機関共同後方視的研究（日本膵臓学会　膵癌取扱い規約検討委員会研究）」に関する論文がPancreatologyにアクセプトされた

Tanaka H, Hirabayashi H, Fujii T, et al. Clinical importance of suspicious for malignancy compared to positive for malignancy in peritoneal cytology for surgically resected pancreatic cancer, Pancreatology, 2025 (in press)

〔審議事項〕
なし

細胞検査士資格認定試験のあり方に関するワーキンググループ（委員長 三上 芳喜）
【資料なし】
〔報告事項〕
1. 2025年5月8日（木曜日）に第3回のWEB会議を開催し、WGから発出する提言の原案について議論するとともに、進捗状況を確認した。次回は7月ないし8月を予定している。

〔審議事項〕
なし

子宮頸がん検診における細胞診判定の在り方に関するワーキンググループ（委員長 田畑　務）
【資料あり】

〔報告事項〕
1. これまでにがん研有明病院にメンバーが集まり、5回の検討会の場を持った（2024年8月10日、11月3日、2025年1月18日、3月20日、5月18日）。検討会では、メンバー全員でHPV陽性症

例の検鏡を行った。今後は、HPV検査単独法に対応できるように、HPV陽性症例の中でもNILM 、または、ASC-US以上と判定すべき基準作成を目指していく予定である。可能であれば、アトラスのようなものの作成を検討する。

2. 検討結果は2025年6月の第66回日本臨床細胞学会春期大会にて発表予定である。
3. 第66回日本臨床細胞学会春期大会にて「子宮頸がん検診における『JAPAN LBC宣言』」として、子宮頸がん検診に於いて LBC を全国的に普及するよう、関連団体（日本産科婦人科学会、日本婦人科がん検診学会、日本婦人科腫瘍学会、日本産婦人科医会）と共に本学術集会で宣言を行うことに了承を得た。

〔審議事項〕
なし

<u>その他</u>
〔報告事項〕
1. 今後のスケジュール（0.07_2025年度日本臨床細胞学会予定表20250610現在）
2. 2025・2026年度委員会構成

〔審議事項〕
1. 会員資格停止者について（0.03_会費滞納者一覧20250613現在）
審議結果⇒承認　（2年をこえる会費滞納者の資格停止が承認された。）

2. 2028年度（第69回）春期大会長選出について
1名の応募があり、大会長の選出メンバーにおける厳正な審査の結果、渡利 英道 理事（北海道大学　産婦人科）を推薦することとなった。
審議結果⇒承認
学術集会長候補者の選出メンバーは以下のとおりであり、選出作業は本理事会を中断して行われた。
理事長　森井 英一
前理事長　岡本 愛光
副理事長　田畑 務、宮城 悦子、羽場 礼次、伊藤 仁
学術委員会委員長　田尻 琢磨
（役員等選任に関する施行細則第2条より）

3. アジア細胞学会連合（AFCS）担当ワーキンググループ発足について（0.08_アジア細胞学会連合（AFCS）担当WG）
審議結果⇒承認（発足の趣旨について森井 英一 理事長より説明があり、承認された。）
質疑：
・青木 大輔 監事：私もIACと本学会の春季大会を併催させていただき、関係各位の多大なるご協力のもと、非常に活気ある大会とすることができた。私の場合は、当初より両大会を同時開催する前提でお引き受けしたが、横山先生におかれては後付けで併催をご依頼する形となったと認識している。したがって、今回のようにワーキンググループを設置していただいたことは意義深いことであるが、その上で私が最も懸念しているのは、率直に申し上げて「財政面」である。国際学会の開催には相応の費用を要することが想定され、国際学会側への支援が過度に増大した場合、本学会本体への支援が手薄になる可能性も否定できず、その点も十分にご配慮いただきたい。資料には中根氏が入ると記載されているが、コンベンションの選定については既に決定しているのか？
→　幕張メッセに決定している。（横山 良仁 理事）
→　横山先生にご負担をおかけしないよう最大限の配慮をしながら、進めていく方針である。あわせて、経理的な面の対応も必要であることから、山下先生にもご参画いただく。また実務担当

の方々にも参加いただく形で今回のメンバー構成を決定した次第である。（森井 英一 理事長）
→ 財政面および労力面において、皆様のお力添えとご協力を賜れれば、誠にありがたく存じる。何卒ご支援のほど、よろしくお願い申し上げる。（横山 良仁 理事）

以上で本理事会は、終始異状なく議題の審議を終了し、森井 英一 理事長の閉会挨拶をもって終了した。

2025年 8月 2日

この議事録が正確であることを証します。

理事長 森井 英一 印

監事 長村義之 印

監事 青木大輔 印

監事 佐藤之俊 印

監事 小松原祐介 印